

「つながり」のある地域で暮らしたい



進む少子高齢化、人口減少、核家族化、多様化する生活様式。ひと昔前と比べると、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化してきました。

そうした中、地域社会の結び付きは希薄化していると言われています。そのため、1人暮らしの高齢者や障がいのある人の雇用、ひきこもり、生活困窮など、現代社会はさまざまな課題を抱えています。

安心して自分らしく毎日を過ごしていける地域であるためには、どのような取り組みが必要なのでしょう。

まずは、平成29年度に市民ワークショップに参加した山野瑚春さんにお話を伺いました。

ワークショップから 見た地域の課題

当時、在学していた真庭高校の先生から勧められ、昨年の8月に4回、地域福祉を考えるワークショップに参加しました。

色んな人の話を聞くうちに、私と同じように新興住宅地で育った人たちは、高校を卒業する頃になると地域との関わりが少ないまま市外に出てしまうケースが多いということに気付きました。

そうして高齢者が増え、助けを求めている人に対して助ける人が少ないという状況が生まれているのではないかと思います。

人や地域に関心を

ワークショップに参加しなかったら、考える機会も現状を知ることもしませんでした。もっと真庭に住んでいる人たちがこういった機会を見つけて参加することができたら、意見が言えるし、言えなかったとしても、他の人たちの意見を聞くことができます。新たな発見があるかもしれません。まず、関心を持つことが大事なんだと思います

「つながり」のある地域

新興住宅地や団地、アパートなどに住んでいる人たちは地域に関わる



「つながり」のある 地域に住みたい

山野瑚春さん(台金屋)

ことが少ないかもしれませんが、一方で、私の祖父のように昔ながらの集落に住んでいる人たちは、地域に「つながり」があつてみんな仲が良いということにも気が付きました。

けれど、働きざかりと言われる世代の人たちは、地域外に勤めに出ていることも多く、地域での付き合いなどをすることが難しくなっているそうです。そうしたこともあり、地域の「つながり」が少なくなつてしまっている気がします。

自分たちにできるかどうか分かりませんが、将来は、「つながり」のある地域に住むことができればいいなと思っています。

真庭市を取り巻く 現状と課題

平成29年度、真庭市は「第2次地域福祉計画」などの計画策定のため、アンケートや市民ワークショップを行い、地域福祉^(※)実現に向け真庭市の現状と課題を整理しました。

「人」

市内に住む9割の人は何らかの近所付き合いをしており、市内各地で地域活動や行事を行っている団体も多くあるものの、少子高齢化による役員のなり手不足や、資金不足から活動を縮小せざるを得ない状況がみられます。一方で、若年層では「仕事の多忙さ」などから近所付き合いが希薄になり、自治会などの活動への参加が少ない傾向があります。

「地域」

地域の人たちとの関わりが大切だと多くの人が感じており、近所付き合いをしている人ほど「住みやすい」と考える人の割合が高く、地域との「つながり」が生活に影響を与えていることがうかがえます。災害発生時にも「誰かの助けを必要とする」人の割合は高まっている一方で、手助けの面においても「支援を要する人の把握ができない」「障がいのある人などへの対応方法が分からない」といったことなどが課題として挙がっています。

「基盤」

困りごとの相談体制強化や、施設のバリアフリー化、交通利便性の向上など、まだまだ十分とはいえず、さらなる整備が必要です。

平成30年3月に策定された「第2次地域福祉計画」、「第3次障がい者計画」、「第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」は真庭市ホームページからご覧いただけます。

ホームページでは現状と課題だけでなく、計画の基本理念、人材育成や相談体制などの充実に向けた方策などもご覧いただけます。

真庭市 ○○○計画

検索 🔍

全ての個性にハッピーを

放課後等デイサービス (株)ピタゴラス

ピタゴラスでは、小学生から高校生までの支援学級などに通う子どもたちのデイサービスを行っています。

大人でも来なくなるような明るい居場所づくりをモットーに、空間づくりはもちろん、自由な活動で子どもたちの興味を引き出し、得意な才能を発見して後押しできるように心掛けています。得意な分野を伸ばしていくことで、将来の仕事につながることもあるかもしれません。子どもの頃から就労について考えて取り組みをしていくことも大切です。



▲明るく楽しい空間でのびのび過ごす

子どもたちは「守られている空間」で過ごしていますが、いずれは自分の知らない人たちとも関わりながら生きていかなくはなりません。この空間、ただでの活動にとどまることなく、外との接点は意識して持ち続けます。いつもと違う空間、いつもと違う大人たちと接し、成長していきます。

その子らしさを大切にしています

株式会社 ピタゴラス(久世)

(写真左から)

中野貴恵さん

長綱かほりさん

河野誠二さん



組み

暮らしやすいまちづくりのため、市内各地でさまざまな活動が行われています。各種団体に取り組んでいる福祉活動も数多く存在します。ここでは、市内の取り組みを少しだけご紹介します。



▲福祉有償運送だけでなく介助も

以前からケアマネジャーとして介護に携わる仕事をしていましたが、介護保険だけではサービスが完結しないことを実感しました。受診はもちろん、旅行や買い物など好きなときに出かけることができる地域社会を目指して、平成29年2月に一般社団法人絆を設立しました。福祉有償運送、居宅介護支援、介護予防体操の3本柱で事業を展開しています。福祉移送運送では、身体障害、要介護、要支援の人で一般のタクシーやバスなどの利

介護保険ではできないサービス

一般社団法人 絆

用が困難な人を対象に事業を行います。

「介護福祉士」の資格も持っていますので、移送後の病院内での移動のお手伝いなどができるのも絆の特徴だと思います。

最近では予約も増えてきました。利用者さんには笑顔で「ありがとう」と言ってもらうこともあり、やりがいのある仕事だと感じています。

介護分野にもわくわくや楽しみを

一般社団法人 絆(久世)

長見健史さん



コミュニティ・カフェから始まった

みあけど話し隊

8年目を迎えたコミュニティ・カフェ「愛楽舞(あいらぶ)みあけど」は開催350回を越えました。毎週水曜日、コミュニティハウスに25人ほどが集まって手芸や囲碁、将棋などを楽しんでいます。特にみんなで取る食事は最高です。

当初、「週に1回も開催するなんて無理だ」という意見も内外からありましたが、熱意ある福祉委員さんとスタッフ、楽しみにしてくれている参加者の皆さんのお陰で、今



▲毎週水曜日が楽しみに

では無くてはならない取り組みになりました。2年前には買い物バスツアーも始まり、参加者も増えていきます。さらに、見明戸のみんなが安心して暮らすために、どんなことでも相談できる「みあけど話し隊」を昨年結成し、通院、ごみ出し、除雪などの対策も始めています。

週に1回 8年間続く取り組み

みあけど話し隊(見明戸)
大西 泉さん



市内の取り

「農業」と「障がい者施設」が連携

佐藤園芸とコスモスワーク

佐藤園芸は家族経営で農業をしています。家族だけでは人手が足りません。パートさんや就労継続支援B型事業所コスモスワークの障がいのある人たちと一緒に仕事をしています。

今では、年間1000回ほど植え込みをお願いしています。農業は、手作業が多く、IT分野などと比べると効率の悪い仕事だと言えますが、農業だからこそできることをやっていきたいと考えています。工夫をして一緒に働く人たちにとつても安心して働ける場所を目指しています。

コスモスワークとのお付き合いは10年以上前から。初めは、トレーにポットを入れてもらうという内職をお願いしていました。野菜苗の注文が増えてきた6年ほど前からはハウスまで来てもらい、植え込みをしてもらうようになりました。



▲植え込みをするコスモスワークの人たち

福祉事業所と 連携して農業を

佐藤園芸(上水田)
佐藤裕司さん



新たな「つながり」を求めて

住み慣れた地域で「自分らしい暮らし」を続けていくためには、変化し続ける社会情勢に合わせて地域の仕組みを整えていく必要があります。その手助けをするため、平成30年4月から7人の「生活支援コーディネーター」が市内6カ所に配置されました。「生活支援コーディネーター」の役割について池原忍主任生活支援コーディネーターに話を聞きました。

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けていくことは、真庭市に住む人みんなの願いだと思います。しかし、市内にもさまざまな面で支援が必要としている人たちがいます。その人たちが地域の支え合いの中で、必要としている支援を受けることができる仕組みをつくっていきたいと考えています。

「地域の仕組み」づくりを進める「生活支援コーディネーター」

私たち「生活支援コーディネーター」は、みんな介護や医療の現場で仕事をしてきました。これまで培ってきた経験をこれからも生かしていきます。

今は、皆さんのサロンや集会など

の地域活動に参加してお話を伺ったり、閉じこもりがちな高齢者がいるといった相談を受けて訪問させていただいたりしています。このような活動を通じて、困りごとや地域の課題を少しずつ把握しています。今後、も皆さんの声に耳を傾けるとともに、真庭市全体や身近な地域で、何が必要とされているのかを整理し、地域の皆さんにお伝えします。地域の課題解決に向け、一緒にアイデアを出し合って、地域の中で支えあう仕組みができるよう皆さんを応援いたします。

既に行われている取り組みから学ぶ

市内では各地でさまざまな活動が行われています。特に福祉においては、社会福祉協議会による見守り活動や「ふれあい・いきいきサロン」

での交流の場など、地域の人が支え、支えられる仕組みが構築されつつあります。私たちは、さまざまな機関とも連携して地域が必要としている取り組みを一つでも多く形にしていこうことを目指して活動しています。

地域の取り組みを応援します

主任生活支援コーディネーター
池原 忍



地域の課題と地域の担い手を 探して「つなげる」生活支援コーディネーター

市内6か所と市全域を担当する「生活支援コーディネーター」を配置しています。地域に出向き、皆さんと話し合いながら、取り組みを応援していきます。

☎ 地域包括支援センター 大盛 TEL0867-42-1117 (FAX1305)

住み慣れた地域で
いつまでも「自分らしく暮らす」
を応援します。



蒜山地域

高見 絵美

千寿荘(蒜山上長田28-1)
TEL0867-66-3800

美甘・湯原地域

田中 啓恵

緑風荘(美甘326)
TEL0867-56-2377



地域の「困りごと」を
教えてください。

皆さんの取り組みを
応援します。

勝山地域

福島 典子

神庭荘(組370-1)
TEL0867-44-3555



久世地域

坂本 美由紀

地域包括支援センター(久世2927-2)
TEL0867-42-1117



「困りごと」を解決するための
新しい取り組みを考えましょう。

活躍の場を求めている
地域の「担い手」さんいませんか。

落合地域

辻 祐子

落合振興局(落合垂水618)
TEL0867-52-1159



皆さんの集まりにお邪魔します。
お話を聞かせてください。

それぞれの地域を担当
するコーディネーターと連携し、
市全域に関わる課題への取り組み
や、地域を越えた取り
組みなどを推進
していきます。

真庭市全域

池原 忍

地域包括支援センター(久世2927-2)
TEL0867-42-1117



北房地域

松田 朝子

花岡荘(上中津井1071-1)
TEL0866-52-2100

